

各地で新年会開く

日本塗装機械工業会

塗装が最重要フェロ啓蒙



日本塗装機械工業会(CEMA)木下真生会長(右)は、1月26日午後、時から新年互礼会を古屋市中村区檜町の名鉄ニューグランドホテルで開催。例年より制席多し80名余りが集まった。

講演会では、人材活性プロジェクトサ(吉本興業プロデューサー)の大谷由里子氏が、「大谷流」の発案者として、塗料の活用と人材の活用を軸とした経営戦略について講演し、聴衆の心を掴んだ。

また、2016年に創立40周年を迎えることになり、莫大に努力した1970年代と異なり、21世紀のシジョンに合わせたローカル化や作業環境、地球環境の保全に加え、地位向上への意欲に向けて地殻変動を起す「新しい念」を打ち出したと述べた。

また、2016年に創立40周年を迎えることになり、莫大に努力した1970年代と異なり、21世紀のシジョンに合わせたローカル化や作業環境、地球環境の保全に加え、地位向上への意欲に向けて地殻変動を起す「新しい念」を打ち出したと述べた。

日本塗装機械工業会(CEMA)木下真生会長は、1月26日午後、時から新年互礼会を古屋市中村区檜町の名鉄ニューグランドホテルで開催。例年より制席多し80名余りが集まった。講演会では、人材活性プロジェクトサ(吉本興業プロデューサー)の大谷由里子氏が、「大谷流」の発案者として、塗料の活用と人材の活用を軸とした経営戦略について講演し、聴衆の心を掴んだ。

また、2016年に創立40周年を迎えることになり、莫大に努力した1970年代と異なり、21世紀のシジョンに合わせたローカル化や作業環境、地球環境の保全に加え、地位向上への意欲に向けて地殻変動を起す「新しい念」を打ち出したと述べた。

また、2016年に創立40周年を迎えることになり、莫大に努力した1970年代と異なり、21世紀のシジョンに合わせたローカル化や作業環境、地球環境の保全に加え、地位向上への意欲に向けて地殻変動を起す「新しい念」を打ち出したと述べた。



ペイント&コーティングジャーナル

2015.2.4 (3)

40周年に向け、活動充実図る

CEMA

日本塗装機械工業会は1月26日、名鉄ニューグランドホテルで新年互礼会を開催した。関係者80名が出席。あいさつに立った木下真生会長は「2016年には40周年を迎え、その記念行事を一つの大きな区切りとし、次の20年、30年、40年に更なる発展のため布石を打っていく」と述べた。木下会長は会員増強を継続して目指すとともに、5部会活動の推進、ホーム

ページの活性化、統計の精度アップ、シンポジウムの内容刷新などに努めていくとした。

来賓代表として、日塗工の叔岡伸茂常務理事、日本工塗連の川西克司会長、日塗装の乃一稔会長があいさつし、副会長の壺田貴弘氏の乾杯の発声で懇親会に移った。

場を提供できる。CEMAと工業塗装業界の発展に寄与したい」と述べ、最後に日本塗装工業会長の乃一稔氏が「建築塗装の分野では人手不足が深刻である。これに専ら国人労働者によるものがあるが、現場の塗装を機械化できないかという話が会場内で上がっている。機械化できると人手不足を解消できると力をお借りしたい」と述べた。

乾杯のあいさつを同工業会副会長の壺田貴弘氏が「若手技術者のモチベーションを低下させずに育成し、日本のものづくりを成長させていこう」と行い、懇親会に入った。

中締めを同じく副会長の甘利豊隆氏が「木下会長からの話があった。塗装はなくてはならないもの。人をいかに活用して、新しいことを実現していくか。人だけでなく、機械の力も不可欠である」と述べ、続いて日本工業塗装協同組合連合会会長の川西克司氏が「建築塗装の現場で、若い人材の不足が深刻である。CEMAの力を活用して、